

発行責任者  
東大和障害福祉ネット  
ワーク  
東大和市南街 1-22-6 1F  
NPO 法人  
自立生活センター・東大和内  
TEL：042-567-2622  
2023年1月1日発行

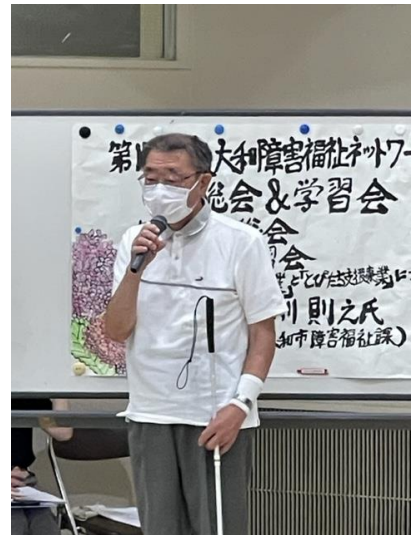


本年も市民の皆様・構成団体の皆様と共に福祉の向上に努めてまいります。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2022 年総会報告

2022年6月28日、ネットワークの総会を行いました。昨年引き続き対面で行われ、会場となった東大和市中央公民館ホールには、約50名の方々が集まりました。

第1部の総会では、昨年度の活動と今年度の活動等の報告がありました。今年度は国連の障害者権利条約の日本審査が行われること、国内においても改正障害者総合支援法施行のための基本方針・第5次障害者基本計画が策定されるなど、注目したい出来事や重要な変化が多くあることに加え、東大和市内においても部・系の再編が行われ、新しい障害福祉課での出発となることが紹介されました。ネットワークでも、新役員として東大和市総合福祉センターは～とふるの柁原さん、CIL 東大和の星野さん・琴が加わり、2022年度をスタートしました。今年度はSDG'sの取り組みに関するアンケートの実施や、3年ぶりとなる上映会など、感染症対策に留意しつつ活動を広げていく予定です。



第2部の学習会は、東大和市障害福祉課の小川さんに「『よりそい支援事業』と『とびたち支援事業』について」という題で講演をしていただきました。この二つの事業は、地域生活支援拠点事業「ういずねっとi」の一環として始まったものです。

「よりそい」は昨年度から、緊急の出来事が起こった際に、市内の障害福祉サービス事業所において対応できるよう、体制を整えたものです。「とびたち」は今年度から、障害がある方の一人暮らしの体験事業として、市内2か所の事業所にて実施されています。東大和市内において、障害がある方に関するサービス利用状況等の現状報告もあり、参加された方々からは東大和市の取り組みが分かった、これからもっと知りたいという感想をいただきました。また今後について、「横のつながりをもっと作りたい」という感想もいただきました。ネットワークの初代代表であり、相談役として活動されてきた海老原宏美さんは亡くなりましたが、障害がある方々が地域で活動の場を広げられるよう、引き続きネットワークの活動を展開してまいります。今後ともよろしく願いいたします。



# SDG's のアンケートを行いました！

SDG's が注目されている昨今、障害福祉ネットワークでも構成団体の協力の元、ご自身で行っている「私のSDG's」と題してアンケート調査を行いました。

アンケートの結果を見てみると日常生活で意識をもって取り組んでいらっしゃる方が多く、具体的に内容を確認すると、あらためて一人一人意識しなくてはいけない事ばかりだと思いました。

“SDG's”と掲げてしまうと、難しい事なのではないかと思いましたが、自分の生活の中で行える事も多いのに気がつきました。そして意識しながら生活をする大切さを学びました。これからも自分たちの暮らしを良くするために、声掛けをしながら、SDG's の広がりを心から望むものです。

アンケートにご協力頂いた皆さま、ありがとうございました。

## SDG's とは

世界で持続可能な未来を築くため、国際連合で定めた開発目標です。

貧困や不平等、気候変動、環境劣化。繁栄・平和と公正など私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指しています。

〈2030年までに17の各目標を達成する〉



## 日頃行っているSDG'sの取り組み（アンケート結果）

（目標5） 男性、女性だからと判断しない生活をしています。

家事を率先してやるようにしている 家事は家族全員で分担している。

（目標13,14,15） ゴミ分別をしっかりとる（水切り）。 お箸・スプーンなどは貰わない。

レジ袋はもらわない（マイバッグを持っていく）、水筒を持ち歩く。

地域でゴミ拾いを行い、地域の方々と交流を深める。

（目標3,13） 自転車をなるべく使う。自動車の使用を控える。自転車を使用する。

（目標7） 電気をこまめに消している。 エアコンの冷房の温度を28℃にする。

（目標6,11） トイレにユニバーサルシートの設置をお願いしている。

（目標12） 食品は日付の古いものから買う。訳あり品を買う。食品ロスを防ぐ。

訳あり品を買ったり、フリマを利用したりしている。

すぐ食べる食品は賞味期限の早いものを買う。

（目標13.15） 裏紙を使ったり、紙を資源回収に出したりする。

（目標2） 食品は割引のものを購入（消費期限が近いものなど）。

（目標8） 定年を延長した。 仕事、作業は平等になる様に配慮している

（目標1） 貧困をなくすために活動している 毎月少しずつですが、募金をしています。

（目標4） インクルージョンの社会について身近な人と話し合う。

（目標1、2） 非常食を入れ替えるとき、前の食料はこども食堂に寄付する。

（目標3） 週4日以上、1回1時間程度歩いている。

（目標17） 環境や社会にとっていいことは何か、日頃から周りの人と話し合っている。

第2あたりえトントンとしては事業活動を通じて地域福祉の推進を図っており（目標3）、

また様々な作業を通じて障害のある方にとっての働きがいを持てるようにしています。

（目標8）

特に革作業では端材を用いた製品開発、リサイクル作業では資源の再利用（目標12）  
を意識して取り組んでいます。

---

上記以外にも

\*SDG'sについて理解が十分でなく、これから学ぶ事から始めたい。

\*よく耳にしたりテレビで見かけるが、特に意識して行動していない。

という意見もありました。

# 3年ぶりに上映会を開催しました！

2022年10月29日(土)に、ハミングホールにおいて映画「梅切らぬバカ」のバリアフリー上映会を行いました。当日は晴天に恵まれ、239名の方にご来場いただきました。

映画のあらすじは母親と自閉症の息子、ちゅうさんが、社会の中で生きていく様子を温かく誠実に描いた人間ドラマです。始めはお隣さんとの関係がうまくいかなかったが、小学生の息子を通して次第に仲良くなり、最後は食事まで招待するようになります。途中、息子のちゅうさんがグループホームに入所しましたが、そこで近隣住民とのトラブルもありました。

地域社会との関わりを通して障害の有無に関わらず、同じ人間同士理解しあえるのではないかな？何も梅切らぬとも支えあい、共に生きていく事は出来るのだと実感しました。



上映後、和島監督とのトークショーも行われました。

タイトルに込めた監督の思いや、障害福祉やグループホームに対する監督の考えなどをお聞きしたり、和島監督とご来場の皆さまとの意見交換をしたりしました。非常に和やかな雰囲気での上映会を開催することが出来ました。

上映後のアンケートも多くの方にお答えいただきましたので一部ご紹介したいと思います。

- ・映画の続きが見たいと思いました。
- ・批判する事よりも理解する事の重要性。
- ・障害者とのつながりがなく、障害者の理解は出来ていないのですが、映画を観てハードルが少し小さくなった気がしました。とても心暖まる映画でした。

当日上映会にご来場いただいた多くの市民の皆さま、本当にありがとうございました。



みんなの家さんにステキな立て看板を制作していただきました。監督さんも大変喜ばれていました。

上映会後のトークショーの様子です。ご来場の皆さまから感想やご意見をいただきました。



# 「みんなの家」新施設、完成しました！



脳血管障害や事故などによる中途障害の人たちの働く場、日中の居場所として 1991 年に開所したみんなの家、翌年には第二みんなの家、その4年後には第三みんなの家とあつという間に3か所となりました。その後 2006 年に障害者自立支援法が施行され、2012 年にはみんなの家も就労継続支援 B 型の事業所として事業を開始しました。

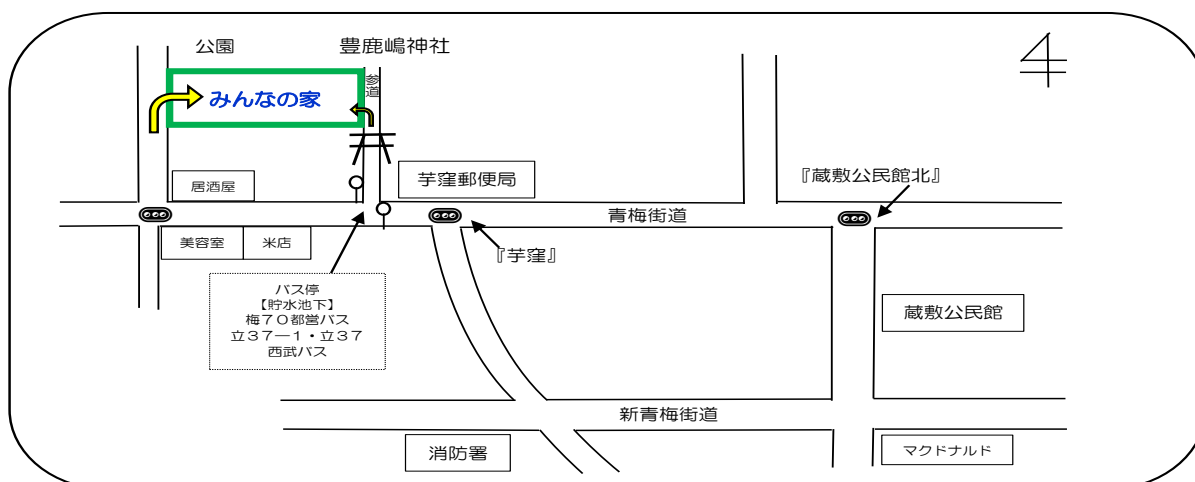
それまでは身体障害の方だけだった利用者も、知的や精神など様々な障害のある人が通所するようになり、より重度の方も増えてきました。「作業所が狭くて移動が大変」「トイレの数が少ない」「作業のスペースがない」など、広い施設を望む声が多くなり、8年前から施設建設の検討が始まりました。

土地購入の制度は廃止され、施設建設の国庫補助も受けられず、結局すべて自力、借入金と自己資金だけの建設計画、はじめはとても無理では・・と思われましたが、運よく豊鹿嶋神社の西側の広い土地を購入することができ、施設建設の計画が一気に前に進みました。

福祉医療機構の借り入れの他に、土地購入と施設建設のための多額の自己資金も、関係者や地域の本当に多くの皆様が、寄付のお願いの呼びかけに応じてご支援くださり、何とか目途がたってきました。

5月から始まった建設工事は11月末に完了し、12月1日に建設業者からみんなの会に引き渡しとなりました。12月中に引っ越し作業をし、新年1月からは、いよいよ3か所が一つになり、新しい施設で、就労継続支援 B 型（45人）と生活介護（15人）の多機能型事業所としてスタートします。

みんなの夢が実現したのも、東大和障害福祉ネットワークはじめ、地域の皆様のご支援の賜物です。本当にありがとうございます。是非新施設「みんなの家」へ見学にいらしてください。お待ちしております。



# 新規ネットワーク加入団体紹介

## 東大和市総合福祉センターは〜とふる

は〜とふるは、平成 28 年 10 月 1 日、新たな地域福祉の拠点として開設し、7 年目となっております。

は〜とふるの名前の由来は、市民の皆様から名前の公募を募り、「心と心が通じあう、あたたかい心のもった施設」として名付けられました。

この名称にふさわしく、様々な人が出会い、ふれあい、交流の場となることを目指して、日々運営をしております。

この度、東大和障害福祉ネットワークに参加させていただき、とてもうれしく思っております。今後皆様とともに活動させていただき、ともに東大和市における障害に対する理解促進に寄与していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 放課後等デイサービスあかぐみ 上北台

令和 4 年 1 月に東大和市蔵敷に重症心身障害児の放課後等デイサービスをオープンいたしました。東大和市内に放課後等デイサービスあかぐみ東大和に続き 2 事業所目になります。利用者さまが楽しめるようなイベントや体験などを計画したいのですが、コロナ禍もあり思うようにできていません。「感染しないさせない」の意識を持ち、安心・安全な楽しい放課後等デイサービスを運営していきたいと思っております。



## 放課後等デイサービスあかぐみ 蔵敷

令和 4 年 5 月に武蔵村山市より移転いたしました。放課後等デイサービスあかぐみ上北台のお隣になります。東大和市の障害福祉の発展に貢献できるよう頑張っております。よろしくお願いいたします



# 東大和障害福祉ネットワークを 一緒に拡げていきましょう！

## 東大和障害福祉ネットワークとは？

東大和市の地域福祉を充実させていくために、地域で抱える課題をみんなで共有し、一人でも多くの方が手を取り一緒になって考えていくことが大切と考えます。

この想いを元に、市内の障害当事者・家族・事業所の方々が賛同し、平成18年に東大和障害福祉ネットワークが発足し、活動をスタートさせました。その後も、より多くのご賛同をいただき、現在市内30の事業所・関係団体や当事者・ご家族の方々から構成されています。

活動内容として、定期的な話し合いの場を通じ、障害福祉に関する課題の共有、意見情報交換、学習会、映画上映、また情勢に応じ、行政への要望や提言、市民の方への啓発活動も兼ねた、講演会の開催等を行っています。

〇〇●〇〇〇●〇〇〇●〇〇 申し込み＆問い合わせ先 〇〇●〇〇〇●〇〇〇●〇〇

東大和障害福祉ネットワーク代表 水谷 雅弘（東大和市視覚障害者福祉協会）  
電話；042-567-2622 FAX；042-567-2912（自立生活センター・東大和内）

## 東大和障害福祉ネットワーク 参加申込書

年 月 日 提出

|           |                      |
|-----------|----------------------|
| 団体名又は個人名  |                      |
| 代表者名      |                      |
| 住 所       | 〒<br><br>(個人宅の場合 様方) |
| TEL & Fax | TEL<br><br>Fax       |
| メールアドレス   |                      |
| 備 考       |                      |

# 障害福祉係の お仕事 & 職員 を紹介します

令和4年度より障害福祉課の3係では業務分担の変更がありました。以前からの障害福祉係のケースワーカーに加え、相談支援係のケースワーカーが障害福祉係にまとめ、身体・知的・精神・難病の障害の方への「ケースワーク業務」を中心に業務を行っています。

ケースワークとは、障害のある方お一人おひとりに対して、個別の相談や支援を行うことです。6名の担当で、障害の種別と地区別に担当をしています。

また、ケースワーク以外の業務では、障害支援区分の認定調査とサービス支給決定や東大和市障害者総合プランの策定、自立支援協議会の運営、総合福祉センターや地域生活支援拠点事業に関する業務、障害者理解促進事業の取組み、障害者虐待防止センターなども担当業務です。この中で、東大和市障害者総合プラン策定業務では、次期計画策定にむけたアンケート調査を12月に実施予定です。障害のある人もない人も、お互いを尊重し、共生できる東大和の実現のために、皆さまのアンケート調査へのご協力をお願いします。



**障害福祉係** お気軽にご相談下さい

|   | 仕事・担当   | 名前         | ひとことなど                                       |
|---|---------|------------|--|
| ◆ | 障害福祉課長  | おおのり<br>大法 | 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう施策の推進に努めてまいります。 |
| ● | 係長      | こうむら<br>幸村 | 4月に異動してまいりました。皆さま宜しくお願い致します。                 |
| ● | ケースワーカー | 古川         | まだまだ勉強中です。引き続きよろしくお願い致します。                   |
| ◆ | ケースワーカー | 三浦         | お困りごとがございましたら、ご相談ください。                       |
| ◆ | ケースワーカー | 笠原         | お気軽にご相談ください。よろしくお願い致します。                     |
| ● | ケースワーカー | 溝田         | 7月に異動しまだまだ勉強中です。宜しく申し上げます。                   |
| ● | ケースワーカー | 斉藤         | 精神・難病担当です。よろしくお願い致します。                       |
| ● | ケースワーカー | くぬぎ<br>功刀  | 精神・難病の担当です。どうぞよろしくお願い致します。                   |
| ◆ | 再任用職員   | 小川         | 地域生活支援拠点の担当です。よろしくお願い致します。                   |
| ● | 事務職員    | 櫻井         | 障害のある方とご家族のお役に立てれば思っております。                   |

順不同。

名前の前の◆=男性、●=女性



地域生活支援拠点の取組みとして、令和4年4月からスタートした事業です。すでに6人の方が登録し、一人暮らしを始めた方もいらっしゃいます。



じりつたいけん

しえんじぎょう

# 自立体験とびたち支援事業



現在は、家族と一緒に暮らしていたり、施設で暮らしていたりしたけれど、将来、地域で一人暮らしやグループホームで生活してみたいと考えているみなさん。アパート型の居室で将来の自立生活に備えた体験や訓練ができる事業が始まりました。自立体験で、ホップ、ステップ、ジャンプ！ぜひチャレンジしてください！

## 利用できる人は？

- 自立生活を希望する人
- 原則として市内に住んでいる人
- 原則として18歳から64歳の人
- 身体・知的・精神の障害のある人



## どんな体験ができるの？

- 体験コース(ホップ)…自立生活をイメージするための体験をして、自立に向けた課題を整理します。
- 訓練コース(ステップ)…近い将来自立することをめざして、日常生活の訓練をします。



## どこで体験ができるの？

市で委託した事業所の施設(アパートタイプ)を利用していただきます。主に身体・知的障害の方向け、主に精神障害の方向けの2か所があります。

どちらのコースも受入コーディネーターが自立体験のお手伝いをします。

## 費用はかかりますか？

利用料は無料です。ただし、光熱水費などの実費負担はあります。

## 利用期間は？

- 体験コース(ホップ)…1年間の中で10日以内
- 訓練コース(ステップ)…6か月の中で必要の日数

## 体験室はどんなところ？

主に身体・知的障害の方向け(立野)



身体障害の方  
も使いやすい  
バリアフリー  
仕様です。

問合せ：自立生活センター・東大和  
042-567-2622

主に精神障害の方向け(立野)



アパート型  
でひとり暮  
らしに近い  
環境です。

問合せ：合同会社ボアソルチ  
(相談支援ポルト)  
042-516-9835

## 事業全般の問合せは

地域生活支援拠点  
(基幹相談支援センター)まで

- 市役所障害福祉課  
042-563-2111
- 総合福祉センターは〜とふる  
042-516-3981
- 地域生活支援センターウエルカム  
042-564-0891

# 2022年度 役員紹介

| 役 職 | 氏 名    | 所 属                  |
|-----|--------|----------------------|
| 代 表 | 水谷 雅弘  | 東大和市視覚障害者福祉協会        |
| 副代表 | 田淵 規子  | NPO法人 自立生活センター・東大和   |
|     | 平松 美佐子 | 東大和市手をつなぐ親の会         |
|     | 森田 由美子 | 社会福祉法人みんなの会 みんなの家    |
| 書 記 | 尾又 昇司  | NPO法人 ゆうらんせん         |
|     | 本田 未奈  | 東大和市心身障害児・者 家族の会ゆめのわ |
|     | 田中 海之  | 合同会社ボアソルチ            |
| 会 計 | 脇田 正子  | 個人                   |
| 世話人 | 佐藤 英樹  | NPO法人 自立生活センター・東大和   |
|     | 尾崎 美佐子 | フレンズ モ工              |
|     | 加藤 良子  | 障害福祉サービス事業所 (PACE)   |
|     | 柁原 陽介  | 東大和市総合福祉センターは〜とふる    |
|     | 琴 向芽   | NPO法人 自立生活センター・東大和   |
|     | 星野 詠理  | NPO法人 自立生活センター・東大和   |
| 監 査 | 小林 景子  | 個人                   |



# 構成団体

|    |                                    |   |
|----|------------------------------------|---|
| 1  | NPO 法人アダージョ ライブリエ工房                |   |
| 2  | NPO 法人おれんじはあと 精神障害者グループホームなんがい     |   |
| 3  | NPO 法人 グループゆう                      |   |
| 4  | NPO 法人 食工房 ぱる                      |   |
| 5  | NPO 法人 自立生活センター・東大和                |   |
| 6  | NPO 法人生活支援センター207 あとりえトントン         |   |
| 7  | NPO 法人生活支援センター207 第2あとりえトントン       |   |
| 8  | NPO 法人 東大和けやきの会 PACE               |   |
| 9  | NPO 法人 ゆうらんせん                      |   |
| 10 | NPO 法人リング グランデ                     |   |
| 11 | 社会福祉法人えいぶる かたつむりの会作業所              |   |
| 12 | 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 グループホーム フレンズ・モエ |   |
| 13 | 社会福祉法人 この指とまれ                      | 第一、第二、第三みんなの家は統合し、 <b>社会福祉法人みんなの会 みんなの家</b> になりました。 |
| 14 | 社会福祉法人みんなの会 みんなの家                  |   |
| 15 | 合同会社 ソエル                           |   |
| 16 | 合同会社 喜良                            |   |
| 17 | 一般社団法人 かざまぐみ 放課後等デイサービスあかぐみ東大和     |   |
| 18 | 株式会社エルヴィエント 就労支援事業所 NOAH           |   |
| 19 | 東大和市視覚障害者ひとみサークル                   |   |
| 20 | 東大和市視覚障害者福祉協会                      |   |
| 21 | 東大和市手話通訳者の会                        |   |
| 22 | 東大和市聴覚障害者協会                        |   |
| 23 | 東大和市手をつなぐ親の会                       |   |
| 24 | 手・指の会                              |   |
| 25 | 東大和市心身障害児・者 家族の会ゆめのわ               |   |
| 26 | 合同会社ポアソルチ                          |   |
| 27 | 一般社団法人 かざまぐみ 放課後等デイサービスあかぐみ上北台     | NEW!  |
| 28 | 社会福祉法人 友遊会東大和市総合福祉センター は〜とふる       | NEW!  |
| 29 | 一般社団法人 かざまぐみ 放課後等デイサービスあかぐみ蔵敷      | NEW!  |

構成団体、個人ともに募集しています。